

報告3 「ぱれっと福祉バザー終了」についてご報告

ぱれっと福祉バザーは、ぱれっと親の会主催で毎年10月に開催されてきました。任意団体であった「ぱれっとを支える会」発足当時から34回を数え、当初会場は、JR恵比寿駅前にあったエビスグラウンドボウルのパーティールームをお借りし、売上も初年度から50万円を超え、学生ボランティア中心に運営されていました。駅前であいぐるみを着てピラ配りや、えびす界限を宣伝カーを走らせ、車にスピーカーを乗せ、選挙さながら地域の人々にバザーの呼びかけを行なった懐かしい思い出もあります。ビルの5階まで階段を人海戦術で荷物の上げ下ろしは大変苦勞しました。

●会場確保だけではない苦勞の連続

ボウリング場も年々手狭になり、広い会場を探すことになりました。渋谷区とのつながりから、恵比寿区民会館(現地域交流センター恵比寿)のミーティングルームを前々から押さえてもらい、広いスペースで開催することができました。しかし、集まってくる品物の保管場所や値付け作業の場所等、事前の準備のための苦勞は解決しない大きな問題が付きまといました。谷口元理事宅の車庫を毎回お借りし、荷物の保管と値付け作業を、親の会の方たちや職員総出で何回にも分けて行ないました。バザー回数を重ねるごとに認知度も上がり、バザー献品は、個人からのものだけではなく、多くの企業の皆様のご支援もあって、よりお客様に喜ばれる、大変魅力ある多様な品物が会場に並べられるようになりました。

年々車庫だけでは収まり切れなくなり、新たな場所を探す必要が出てきました。理事の方のご協力を得ながら地元企業にお声掛けし、ビルの空き室をお借りしたり、会員の方が所有する駐車スペースをご提供いただいたりしてきました。保管は、バザーが終わ

れば終了ではなく、渋谷区民祭りや地域の催しイベントでもバザーを行なう関係で、長期に渡り品物を保管する必要がありました。

●準備段階からの人手不足

親の会中心で行なってきたバザーですが、ここ数年は高齢化や日中働いている親も増え、値付け作業や前日準備に人手を割くことが厳しくなってきました。また、毎回ぱれっとに宅配便で届く皆様からの荷物を整理し車庫に運び込む作業も、職員が普段の業務をしながら行なっていたため、特に繁忙期を迎えた季節には、日々その労力をどう確保するかという課題もありました。

さらに、移転に伴い、おかし屋ぱれっと・工房ぱれっとの利用者が増えたこと、グループホームが2か所になったことなどもあり、それぞれのスタッフが抱える業務が増え、バザーに伴う準備や作業を行なうことはますます難しくなってきました。

●バザー継続を断念

そこで、ほぼ1年かけてバザーの今後について親の会を中心に話し合ってきました。そして様々な意見が出された中、このたび、継続は難しいという結論に至りました。

バザーには大きく3つの目的があります。①資金調達、②地域への還元とぱれっとの広報、③企業を含めた色々な人とのかかわり・ネットワークの広がり、35年間この理念をモットーにバザーを続けてきました。

バザーを取りやめるにしても、組織運営には資金調達は必須であり、企業を含めた地域とのつながりは今後も大事にしていきたいと思えます。区民祭りや地元の催しには積極的に参加していきます。この3つの目的を失うことなく、他に替わるものができるか、検討に入っています。

(NPO法人ぱれっと理事長 相馬宏昭)